



2024年(令和6年)7月オホーツク管内倒産集計

令和6年8月5日

株式会社 東亜リサーチ

北見市北6条西5丁目1番地

Tel (0157) 23 - 6288

Fax (0157) 24 - 1033

昨年12月以来の発生ゼロ 累積件数は前年同数

7月の発生ゼロは22年以来2年ぶり

■前月比	件数	1件減少(2024年 6月	1件)
	負債総額	3,600万円減少("	3,600万円)
<hr/>			
■前年同月比	件数	2件減少(2023年 7月	2件)
	負債総額	4億4,000万円増加("	4億4,000万円)

2024年7月の発生状況

2024年7月のオホーツク管内における倒産整理企業(負債総額1,000万円以上・内整理を含む)は発生がなかった。月次での発生ゼロは今年に入ってから初めてで、昨年12月以来7ヵ月ぶりのこととなる。なお、網走市のパチンコ店運営会社が7月10日付で破産手続開始決定を受けているが、同社は昨年3月に事業停止・同5月末に2回目の不渡りが発生しており、当社集計基準により当該事実が表面化した昨年7月に倒産企業として計上している。

直近5ヶ年の7月の発生状況は19年0件、20年1件、21年0件、22年0件、23年2件の推移で、平均発生件数は0.6件、同負債総額は9,040万円。例年7月は倒産発生の少ない月であることが窺える。

2024年1～7月の発生推移

過去5年間の1～7月の発生推移は【右・表】の通り。平均発生件数は6.8件。同負債総額は7億204万円。

倒産企業が極端に少なかったコロナ3年目の22年を除くと、ここ数年の発生件数はほぼ横ばいで推移する。負債総額は過去5ヶ年の中で20年に次ぐ水準となっている。

過去5年間と今年1～7月の件数・負債額

年 別	件 数	負 債 額
2019年	9件	6億4,590万円
2020年	8件	11億9,800万円
2021年	8件	8億2,100万円
2022年	1件	2,356万円
2023年	8件	8億2,175万円
2024年	8件	9億7,014万円

今後の見通しと問題点

国内全体では、個人消費やインバウンドを中心とした観光産業で活発な動きが見られる一方、エネルギー価格等の高止まりや深刻な人手不足、輸送コストや人件費増加など各企業でのコスト上昇要因は多岐に及び、収益確保が難しい局面を迎えている。また、直近では日銀の利上げ発表による各方面への影響（貸出金利上昇など）が今後ジワジワと忍び寄ることが懸念され、中小事業者の間では強い警戒感と先行き不透明感が高まっている。

オホーツク管内は年初から6か月連続で倒産が発生するなど重苦しい雰囲気が続いている。7月は昨年12月以来、実に7ヵ月ぶりに倒産発生がなかったものの（※当社集計基準による）、運送や建設業界では時間外労働の規制や人手不足が深刻化するなど苦境に喘ぐ事業者が実に多い様子が窺える。コロナ5類移行後は地域における景気回復への気運も高まり、地域イベントの復活など明るい兆しも感じられつつあるが、未だコロナの後遺症で苦しむ中小事業者も多く、今後も厳しい情勢が続く見通しだ。

